**２０２３年７月29日(土)　高峰高原会場**

 山西雅子

 峰雲や山の緑の大傾斜 坂本遊美

〇 三茎の蕾それぞれ赤蜻蛉 北村武子

 高原に笹の細道露涼し 新村美那子

 誰とはなく入る片蔭の打合せ 増山叔子

 太陽へ向く黄明々禅庭花 朝川由美子

 奥坂まや

〇 赤ざれの山肌のぞく夏の森 柳沢晶子

 薄雪草まづは拝みて山の神 坂本遊美

 靴の紐いつしか濡れて夏野かな 増山叔子

 万緑の奥へ高みへ唸るバス 釜田眞吾

 遠く病む人よ雪割草に風 増山叔子

 久保千恵子

 高原の花に散らばり夏帽子 吉井素子

 揺るるたび詩を生むこころ柳蘭 沼田布美

〇 油蟬ジージー時間錆びつかす 奥坂まや

 山の気の澄みて色濃き夏あざみ 新村美那子

 花野道くねくね土のやはらかき 勝又晃衣

 沼田布美

 万緑の奥へ高みへ唸るバス 釜田眞吾

 日光黄菅触れあふやうで寄り添はぬ 森　羽久衣

 靴の紐いつしか濡れて夏野かな 増山叔子

〇 老鶯の声の清しき小諸かな 久保千恵子

 吾亦紅ドレミファソラシ歌ふやう 塩川孝治

 新村美那子

〇 太陽へ向く黄明々禅庭花 朝川由美子

 万緑の奥へ高みへ唸るバス 釜田眞吾

 マルバダケブキ老鶯へ花を上げ 山西雅子

 峰雲を目線に山の気を吸ひぬ 松本千代美

 柳蘭群るや麓へなだらかに 勝又晃衣

 石山美和子

〇 風やさし海を越えゆく蝶といふ 津田祥子

 高原の花に散らばり夏帽子 吉井素子

 夏空の高さ広さよ鷹一羽 津田祥子

 一切の片蔭のなき頂に 伊藤　政

 バスに乗り夏の時間を分かち合ふ 伊藤　政

 津田祥子

〇 バスに乗り夏の時間を分かち合ふ 伊藤　政

 夏あざみ一つ揺れれば皆ゆるる こしだまほ

 ひと夏の薄紫や風露草 塩川孝治

 松虫草乾いた風の吹く峠 釜田眞吾

 とんぼうものぞきこむなり電子辞書 井上　基

 北村武子

 カーブ切るたびに歌碑句碑登山バス 井上　基

 山の気の澄みて色濃き夏あざみ 新村美那子

 アルプスも佐久も千曲川も夏霞 井上　基

〇 ずば抜けて梅恵草の逞しく 石山美和子

 バス降りてやはらかき風松虫草 勝又晃衣

 田中温子

 靴の紐いつしか濡れて夏野かな 増山叔子

 山の気の澄みて色濃き夏あざみ 新村美那子

 遠く病む人よ雪割草に風 増山叔子

 お花畑ここから雲の湧き出づる 森　羽久衣

〇 夏空の高さ広さよ鷹一羽 津田祥子

 釜田眞吾

 お花畑浮世に暫し暇せり 沼田布美

 山の気の澄みて色濃き夏あざみ 新村美那子

 蜻蛉撮るカメラにとんぼ止まりけり こしだまほ

 みすずかる山には山の片かげり こしだまほ

〇 熊除の鈴を遠くに夏薊 森　羽久衣

 吉井素子

 ひと夏の薄紫や風露草 塩川孝治

 遠く病む人よ雪割草に風 増山叔子

〇 万緑に一村沈みをりにけり 北村武子

 アルプスも佐久も千曲川も夏霞 井上　基

 夏空の高さ広さよ鷹一羽 津田祥子

 坂本遊美

 耳元に虫の翅音や花野行 石山美和子

 すれ違ふリュックに供花や夏の山 増山叔子

 熊除の鈴を遠くに夏薊 森　羽久衣

〇 お花畑浮世に暫し暇せり 沼田布美

 松虫草乾いた風の吹く峠 釜田眞吾

 加瀬みづき

〇 草原に蜻蛉群れ飛ぶ無音界 奥坂まや

 老鶯や佐久の果てなる八ヶ岳の峰 木代爽丘

 みすずかる山には山の片かげり こしだまほ

 青霧の退き際雲を従がへて 松本千代美

 峰雲や山の緑の大傾斜 坂本遊美

 木代爽丘

 日光黄菅触れあふやうで寄り添はぬ 森　羽久衣

 高原の夏日真つ直ぐ降りて来し 塩川孝治

〇 吾亦紅ドレミファソラシ歌ふやう 塩川孝治

 熊除の鈴を遠くに夏薊 森　羽久衣

 車百合イナバウアーのやうに反り 奥坂まや

 井上　基

〇 一切の片蔭のなき頂に 伊藤　政

 高原の想ひ出何時も夏薊 塩川孝治

 這うて這うて蟻は青空見ることなし 奥坂まや

 高峰の雲の峰まで続く道 森　羽久衣

 お花畑浮世に暫し暇せり 沼田布美

 こしだまほ

 野の花のそれぞれの先秋茜 勝又晃衣

〇 高峰を避暑地と選びアキアカネ 柳沢木菟

 すれ違ふリュックに供花や夏の山 増山叔子

 遠ければ美しく見ゆ夏帽子 井上　基

 遠峰の高さに浮かび秋あかね 津田祥子

 伊藤　政

 靴の紐いつしか濡れて夏野かな 増山叔子

 蜻蛉撮るカメラにとんぼ止まりけり こしだまほ

〇 すれ違ふリュックに供花や夏の山 増山叔子

 高原の想ひ出何時も夏薊 塩川孝治

 共に過ごす一日大事に花野行く 田中温子

 森　羽久衣

〇 高原の花に散らばり夏帽子 吉井素子

 松虫草乾いた風の吹く峠 釜田眞吾

 遠く病む人よ雪割草に風 増山叔子

 山の神風露の花を侍らせて 釜田眞吾

 それぞれに散りて夢中にお花畑 坂本遊美

 増山叔子

 山母子葉裏も花も白きこと 御厨早苗

 この径も獣道らし夏の露 木代爽丘

 松虫草乾いた風の吹く峠 釜田眞吾

 峰雲を目線に山の気を吸ひぬ 松本千代美

〇 みすずかる山には山の片かげり こしだまほ

 御厨早苗

 アルプスも佐久も千曲川も夏霞 井上　基

〇 山の気の澄みて色濃き夏あざみ 新村美那子

 野の花のそれぞれの先秋茜 勝又晃衣

 繍線菊や鹿の子の蕾爆ぜて花 釜田眞吾

 みすずかる山には山の片かげり こしだまほ

 柳沢晶子

 誰とはなく入る片蔭の打合せ 増山叔子

 遠峰の高さに浮かび秋あかね 津田祥子

 苔の花四手新しき山の神 田中温子

 峰雲や山の緑の大傾斜 坂本遊美

〇 万緑に一村沈みをりにけり 北村武子

 柳沢木菟

〇 峰雲や小諸や佐久をその下に 吉井素子

 柳蘭の繡線菊の紅野の盛り 柳沢晶子

 苔の花四手新しき山の神 田中温子

 薄雪草露に重たし浅間山 木村由里子

 遠峰の高さに浮かび秋あかね 津田祥子

 朝川由美子

〇 峰雲や山の緑の大傾斜 坂本遊美

 繡線菊や鹿の子の蕾爆ぜて花 釜田眞吾

 鳥の声くるりと小さき車百合 津田祥子

 高原の夏日真つ直ぐ降りて来し 塩川孝治

 夏雲の高さ梅蕙草の花 山西雅子

 勝又晃衣

〇 山母子葉裏も花も白きこと 御厨早苗

 涼風や白き小花の乳茸刺 山西雅子

 老鶯や足裏に土の心地よく 新村美那子

 太陽へ向く黄明々禅庭花 朝川由美子

 夏蝶のとびゐり句座を明るうす 松本千代美

 松本千代美

 野アザミや道一本の甘き風 沼田布美

 お花畑浮世に暫し暇せり 沼田布美

〇 青空を我が世とばかり刺羽かな 坂本遊美

 ひと時を見つめ合ひたる夏の蝶 久保千恵子

 共に過ごす一日大事に花野行く 田中温子

 木村由里子

 天辺が好き柳蘭にもトンボかな 柳沢木菟

〇 峰雲や山の緑の大傾斜 坂本遊美

 佐久はるか青田もパステルカラーなる 木代爽丘

 靴の紐いつしか濡れて夏野かな 増山叔子

 みすずかる山には山の片かげり こしだまほ

 塩川孝治

 松虫草乾いた風の吹く峠 釜田眞吾

 峰雲を目線に山の気を吸ひぬ 松本千代美

 熊除の鈴を遠くに夏薊 森　羽久衣

〇 すれ違ふリュックに供花や夏の山 増山叔子

 木道のとぎれし所柳蘭 石山美和子